

ラールニ至リシモノナリ

2、十月十五日（十六日）夜橋本中佐カ陸軍次官ニ加盟ヲ強要セルコトハ事件ヲ白日ノ下ニ晒ス結果ヲ來セリ

彼等ハ決行ノ直前ニ於テ上級者ヲ強要シテ加盟セシムト常ニ號シアリシカ彼等ハ何レノ日ニ決行セント計畫セシヤ吾ハ橋本中佐ノ此ノ行爲ヲ目シテ或ハ苛酷ナランモ中佐自ラ進退谷マリ決行ノ意志ナク上司ノ力ニヨリテ一般ヲ抑壓セントセシモノニ非スヤト見解ス橋本中佐ハ屢々今村大佐ヲ訪レ「吾ハ今ヤノツピキナラヌ所ニ陥レリ」ト稱シアリシ事實ニ照シ吾ノ右ノ見解カ失當ナラサルモノト認メラル蓋シ今村大佐ハ參謀本部ノ有力課長ナリ而カモ橋本中佐ハ未タ嘗テ大佐ニ話シ掛ケタルコトナキニ拘ラス十月十日前後突如トシテ右ノ如ク行動セルハ何等カノ煩悶アリシ結果ナラン

橋本中佐ノ本心ハ如何アルニセヨ過早ニ次官ニ加盟ヲ強要セルハ明カニ事件ヲ發覺セシメタルモノナリ

3、大川周明博士ハ之ヲ宮内省高官ニ賣レリト云フ

但シ此ノ點ニ就キテハ左ノ如キ異説アリ

イ、宮内省ノ「スパイ」カ大川博士ノ信任ヲ得アリ今回ノ舉ヲ内示セル所「スパイ」ハ之ヲ關屋次官ニ報告セリト

ロ、大川博士自ラ賣レリト

ハ、第一新聞社ノ宅野田夫ハ本件ヲ逆用シ宮内省高官ヲ脅迫シ金錢ヲ得ントセルニ基因スト

但シ宅野田夫ナル者ハ其ノ人ト爲リ上幾多ノ非難ヲ有シアリ

以上ハ十月事件ニ關シ吾ノ見聞スル所ノ大要ヲ手記セリ終リニ臨ミ本事件ニ關シ若干ノ誤解アル處ヲ解カントス

1、十月事件ハ實ニ反宇垣思想ノ流レナリ

成ル程十月事件ニ關係セル者ノ中ニハ所謂三月事件ニ關係セル者少ナ
カラス三月事件ハ宇垣大將ノ野望ナリシモ十月事件ハ宇垣大將ノ陸
ニ胎セル大ナル人事上ノ過失ヲモ清算セントスルニ在リシナリ往々宇
垣大將ノ亞流ト貶スレトモ當ラス

2、本件ハ一切ノ既成政黨ヲ清算セントスル所ナルハ明ナルモソレノミ
ナラス

實ニ宮内省ノ俗吏カ 天皇陛下ト軍部トヲ遠離セントスル盲動ヲ抑制
セントセル所ノモノナリ特ニ政黨化セル君側ノ奸臣ヲ清算セントセル
ナリ

3、本件ト櫻會トノ關係

往々ニシテ本件ハ櫻會ノ企テタル所ナリト見ラレアルモ否ラス前述セ

ル如ク櫻會中ノ一部急進分子ノ獨斷的ノ策動ナリ現ニ彼等ハ云フ櫻會ハ微濫的ニシテ頼ムヘカラスト櫻會ノ指導精神カ假令獨裁トヘノ躍進ニ在リト雖モソレハ彼等一派ト櫻會トノ直接關係アリト云フ斷定ヲ齎サス蓋シ獨裁ニ親裁ヘノ躍進ヲ考フル者ハ單ニ櫻會ノミニ非サレハナ

十月事件ニ就テ研究スヘキ點少ナカラス

變革ノ理論的構想ノ必要

變革者（實行者）ト理性

變革者ト慾望

一貫セル見透シニヨル計畫ノ立案

軍ノ行動ト統帥命令

軍部外ノ者トノ連絡提携問題

豪遊問題

資金問題

秘密問題

誘惑問題

等々

所謂十月事件ニ關シテ將來ノ參考問題

1、何カ故ニ非常手段ニ訴ヘテ迄モ改革ヲ企圖スル者生シタルヤ其ノ根本問題ノ攻究

2、軍部カ國家ノ改造ニ乘リ出スカ是非カノ根本問題

3、將來第二第三等々ノ事件續出セサルヤ否ヤ

4、續出スルトセハ如何ニ處理スルヤ

5、單純ナル壓迫抑制カ肯定セラルルヤ否ヤ、青年將校ノ腦裡ニ深ク印セラレツツアル國家改造思想ヲ如何ニ導クヘキヤ

6、國家改造ハ必然ナリ

ソノ改造カ國家自體ノ自然的推移ニヨルヘキヤ

一種ノ革命行動ニヨルヘキヤ

革命行動ニヨルトセハ誰人ノ手ニヨルヘキヤ

惨害ヲ極度ニ輕減セントセハ勢ヒ軍部ノ威力ニヨラサルヲ得サルニ非

サルヤ

7、然ル限リニ於テ軍部ノ行動ハ極メテ慎重ナラサルヲ得ス

三月事件十月事件等ノ如ク不用意ノ行動ハ絶對ニ廢セサルヲ得ス而シ

テ目下澎湃トシテ渦ク青年將校ノ改造思想ニ對シテハ適確ナル頼ム所

アラシメ以テ輕舉盲動ヲ慎マシメサルヲ得サル可シ

8、國家改造方案ノ作成ハ目下ノ急務ノ一ニ非サルヤ

補遺

一、橋本一派ニ參加セントセシ兵力中

1、大川周明博士ニ對スル信仰上ヨリセルモノ一中隊

2、西田税、北一輝ニ對スル信仰的關係ヨリセルモノ四中隊

但シ以上ノ兵力ハ必スシモ中隊長カ部下全員ヲ率キルニ非スシテ中隊

附將校カ中隊長ニ代リテ率キントセルモノアリ

(此ノ兵力ノ聯隊號ト將校ノ氏名ハ秘セラレタリ)

ニ、歩兵第三聯隊ニ就テハ計畫者之ヲ示ササリシモ恐ラク關係ヲ有セシナ
ラン彼等一派ハ聯隊長カ「部下全部カ參加スルナラハ聯隊長モ行クサ
云々」ト云ヘリト稱シアリシヲ見テモ推察シ得

三、參加兵力ハ凡テ演習ト稱シ堂々出門シ所定位置ニ至ルコトトセラレアリ

四 所謂十月事件ニ就キテハ東久邇宮殿下ハ全然關係ナシ（彼等一派ノ明

言セル所ニヨリテ證セラル）

五 秩父宮、賀陽宮殿下ニ就キテハ既述ノ如シ

六 建川部長ハ所謂十月事件ニ就キテハ暗黙ノ間ニ諒解ヲ有シアリシヲ窺

ハムルニ足ルソノ理由

一、昭和六年夏關東軍朝鮮軍司令官幕僚ノ上京セル時ノ打合セ事項中ニ

變革ノ件ニ及ヒシモノアリ

二、今村大佐ヨリノ警告的言辭ニ對スル返事（大川博士ノ言ニ就キ）

七 十月事件ニ於ケル一派ノ有チシ計畫ハ極メテ簡單ナリ方眼紙三枚ノミ

其ノ内容

一、一枚ハ警視廳首相官邸等襲撃

二、宮中へノ參内等ノ件

2、一枚ハ人事關係

イ、赤色欄 加盟者氏名

ロ、桃色欄 好意ヲ有ツモノト判断セラルル者氏名

ハ、白色欄 中立ヲ守ルヘシト見ラルル者ノ氏名

ニ、淡青色欄 警戒ヲ要スヘシト見ラルル者ノ氏名

ホ、濃青色欄 「クーデター」 決行ト同時ニ捕ヘテ清算（斬殺）スヘ

キ者ノ人名「大體ニ於テ櫻會ニ對シ壓迫ヲ加ヘタル者、例ヘハ大學香月清司少將陸士中野直三大佐等」及國家意識強キ學者政治家等

ノ氏名アリ

5、他ノ一枚ハ上記人物ノ所在並ニ之トノ連繫之ニ對スル警戒等系統表

ハ十月事件ニ就テハ安達前内相ハ相當精シク之ヲ知リアリト判断セラル

即チ

1、本件カ既ニ警視廳ニ於テ偵知シアリシ點中野正剛ト青年將校トノ
間ニ交際相當深キヲ以テ彼ハ之ヲ知リ安達ニ報告シアリト見ラル

2、安達前内相カ極度ニ青年將校ノ不滿ヲ憂苦セル點（所謂協力内閣
ハ安達カ目論見タルモノニシテ字垣ヲ首相トスルコトヨリ政民ノ大
部ヲ合シ且軍部ノ不平不滿ヲ抑壓シ實權ハ彼カ握ラントセルモノ但
シ中野正剛ハ軍部ニ對シ字垣カ不信望ナルコト荒木中將カ甚々強キ
信望ヲ有シアルコトニヨリ同中將ヲ陸相タラシメント主張畫策シア
リタリ然シ同中將カ入閣ヲ承知スルモセサルモ可ナリ何レモ理窟ハ
アルト見ツツアリタリ）

九所謂三月事件ニ於テ字垣ハ變革ノ意志強キコトハ明白ナリ

1、大川博士カ計畫（大體ノ筋書）ヲ示シ蹶進ヲ促シタル時「君等ソ
コマテモツテ來テ呉レルナラハ起ツ」ト言明セシ點

2、二官次長、小磯局長、建川部長等カ情況ヲ示シ陸軍ノ蹶起ヲ促セ
ル時「陸軍カ起タネハナラヌ時カ來タ」ト云ヘル點但シ軍部カ兵力
ヲ以テ積極的ニ議會ヲ包圍辭職強要（内閣）ノ如キコトヲ衷心ヨリ
肯定セルヤ否ヤ判斷セス

十、三月事件ト十月事件トノ人事處分問題ニツキ「爆彈三百個ヲ民

1、三月事件ニ於テハ何等ノ處分モ人事異動モナシ（爆彈三百個ヲ民
間ノ手ニ渡シタルニモ拘ラス）

2、十月事件ニツキ既述ノ如シ

此ノ二事實ニ於テ一般將校ノ見ル所ハ彼此異ルモ

イ、上級者ハ惡ヲナシテモ免レテ答ナシ

ロ、十月事件ノ犠牲者ハ畢竟スルニ三月事件ノ犠牲者ナリ

ハ、國軍ヲ破壊シ下剋上ノ精神ヲ擴大セル者カ僅カノ處罰處分ト相

場カ決マリシ以上此ノ如キコトハ將來續出セン

趣意書

一 熟々帝國ノ現狀ヲ見ルニ萬象ノ悉ク消極ニ墮シ新進ノ銳氣ハ地ヲ拂フ
 テ空シク明治維新以來降々トシテ發展シ來リシ國勢ハ今ヤ衰頽ニ向ハ
 ントシ吾人ヲシテ痛嘆憂愁措ク能ハサラシムルモノアリ若シソレスク
 ノ如キ狀態ヲ以テ進マンカ吾人大和民族ハ到底現在ニ於ケル世界的地
 位ト名譽トヲ保持シ得サルハ勿論勢ノ趨ク所史上ニ一朝ノ盛觀ヲ止メ
 テ遂ニ希臘、和蘭ノ班ニ墮シ恨ヲ千載ニ殘スヘキハ昭々乎トシテ明ラ
 カナル所ナリ。

而シテ我國カ斯クノ如キ狀態ニ至リシ所以ノモノハ其ノ基因スル所多
 々アルヘシト雖吾人ハ先ツ其ノ核心タルヘキ爲政者ノ重大ナル責任ヲ
 指摘セサルヲ得ス試ミニ眼ヲ擧ケテ彼等ノ行動ヲ見ヨ國民ノ師表トシ
 テ國政ヲ燮理シ上陛下ニ對シ奉リ重責ヲ擔フヘキニ拘ラス其大本ヲ沒

却シテ國是ノ遂行ニ勇ナク大和民族興隆ノ原素タル精神的方面ハ恬トシテ之ヲ顧ミス唯徒ラニ政權、物資ノ私慾ニノミ没頭シ上ハ聖明ヲ蔽ヒ下ハ國民ヲ欺キ滔々タル政局ノ腐敗ハ今ヤソノ極點ニ達セリ。國民モ亦舉ケテ此ノ弊風ヲ感知シアルモ意氣消衰セル現社會ノ雰圍氣ニ同化セラレ既ニ何等ノ彈力ナク政界ノ暗雲ヲ一掃シテ邦家ノ禍根ヲ剪除スヘキ勇氣ト決斷トハ到底之ヲ求ムルニ由ナク國民ハ舉ケテ自ら墓穴ヲ深ウシツツアルモノヲ獨リ左傾團體ニノミ見出ササルヘカラサルノ奇現象ハ果シテ吾人ニ何モノヲ教示スルカ而シテ今ヤ此ノ頽廢シマ、喝セル政黨者流ノ毒刃カ軍部ニ向ヒ指向セラレツツアルハ之レヲ「ロンドン」條約問題ニ就テ觀ルモ明カナル事實ナリ然ルニ混濁ノ世相ニ麻痺セラレタル軍部ハ此ノ腐敗政治ニ對シテスラ奮起スルノ勇氣ト決斷トヲ缺キ辛ウシテ老耄既ニ過去ノ人物ニ屬スヘキ者ニ依リテ構成セ

ラレアル樞密院ニ依リテ自己ノ主張セサルヘカラサル處ヲ代辨セラレタルカ如キ不甲斐ナキ現象ヲ呈セリ

軍部カ斯克ノ如キ状態ニ陥リシ所以ノモノハ其ノ原因一ニシテ足ラヌト雖泰平ノ久シキ士風漸ク衰ヘ一般將校ニ一定ノ主義方針ト武士道ノ名ニ於ケル熱烈ナル團結トヲ缺除シアルヲ以テ第一義的原因トナス過般海軍ニ指向セラレシ政黨者流ノ毒刃カ近ク陸軍軍縮問題トシテ現ハレ來ルヘキハ明カナル所ナリ故ニ吾人軍部中堅ヲナス者ハ充分ナル結束ヲ固メ日常其ノ心ヲ以テ邁進シ再ヒ海軍問題ノ如キ失態ナカラシムルハ勿論進ンテ強硬ナル愛國ノ熱情ヲ以テ腐敗シ竭セル爲政者ノ腹ヲ洗フノ概アラサルヘカラス

ニ現今ノ社會層ヲ觀ルニ高級爲政者ノ悖德行爲政黨ノ腐敗、大衆ニ無理解ナル資本家華族國家ノ將來ヲ思ハス國民思想ノ頹廢ヲ誘導スル言論

機關農村ノ荒廢、失業、不景氣、各種思想團體ノ進出、靡爛文化ノ躍進的擡頭、學生ノ愛國心ノ闕如、官公吏ノ自己保存主義等々邦家ノ爲寔ニ寒心ニ堪ヘサル事象ノ推積ナリ然ルニ之レヲ正道ニ導クヘキ重責ヲ負フ政權ニ何等之ヲ排除スヘキ政策ノ見ルヘキモノナク又一片誠意ノ認ムヘキモノナシ從テ政權ノ威信ハ益々地ニ墜チ經濟思想政治上國民ハ實ニ不安ナル状態ニ置カレ國民精神ハ~~遂~~次弛緩シ明治維新以來ノ元氣ハ消磨シ去ラントシテ國勢ハ日ニ下降ノ道程ニアリ更ラニ之レヲ外務方面ニ觀ルニ爲政者ハ國家百年ノ長計ヲ忘却シ外國ノ鼻息ヲ窺フコトニノミ之ヲ汲々トシテ何等對外發展ノ熱ヲ有セス維新以來ノ積極進取ノ氣魄ハ全ク鎖磨シ去リ爲ニ人口食糧ノ解決ノ困迷ハ刻々トシテ國民ヲ脅威シツツアリ此ノ情勢ハ帝國ノ前途ニ一大暗礁ヲ横フルモノニシテ之カ排除ニ向ヒ絶叫スル吾人ノ主張カ爲政者ニヨリ笑殺シ去ラ

レツツアルハ現状ハ邦家ノ前途ヲ想ヒ寔ニ痛憤ニ堪ヘサル處ナリ
 以上内治外交ノ政策上ノ行詰ハ政黨者流カ私利慾ノ外一片奉公ノ大計
 ナキニ由來スルモノニシテ國民ハ吾人ト共ニ眞實大衆ニ根幹ヲ置キ眞
 ニ天皇ヲ中心トスル活氣アリ明ラカナルヘキ國政ノ現出ヲ渴望シツツ
 アリ、吾人固ヨリ軍人ニシテ直接國政ニ參劃スヘキ性質ニ非スト雖一
 岐々タル奉公ノ至誠ハ折ニ觸レ時ニ臨ミテ其精神ヲ現ハシ爲政者ノ革
 正、國勢ノ伸長ニ資スルヲ得ヘシ吾人茲ニ相會シテ國勢ノ衰運ヲ慨シ
 自ラ顧ミテ武人ノ操守ヲ戒ムル所以モ亦此ノ埒外ヲ出ツルモノニ非サ
 ル也

櫻會人名錄

參謀本部 (×印幹事)

步中佐	牟田口廉也	砲大尉	松村	秀逸×步大尉	二見秋三郎
步大尉	松村	知勝×砲少佐	河邊虎四郎	砲少佐	遠藤三郎
航大尉	寺田	濟一×航大尉	森本	軍藏	步少佐
砲大尉	井原潤次郎	步大尉	秋草	俊	步少佐
砲大尉	濱田	平	中山	寧人	砲中佐
步少佐	藤塚止才夫	×步大尉	小原	重孝×步大尉	田中
步中尉	天野	勇	武藤	章	砲大尉
騎中佐	石本	寅三	諫山	春樹	步中佐
步少佐	中野	英光	影佐	禎昭×步大尉	長
步大尉	今井	武夫	和知	鷹三	步大尉
					大橋
					熊雄



陸軍省

步中佐 安達二十三 砲少佐 奥田千里 步大尉 三原敏男

步少佐 佐藤幸徳 步中佐 上野勘一郎 步少佐 飯田泰二郎

砲大尉 小野打寛 步大尉 青津喜久太郎 步中尉 川原貞男

步中佐 坂田義郎 步大尉 林群臣 步大尉 田中清

步大尉 岩畔豪雄 砲大尉 渡邊秀人 步大尉 眞田穰一郎

工少佐 前田正實 步少佐 富永恭次 步少佐 岡崎清三郎

教育總監部

步中佐 坂西一良 步少佐 北島卓美

警備司令部

步中佐 樋口季一郎

憲兵司令部

憲少佐 三浦 三郎 憲大尉 横山 憲三 憲大尉 美座 時成

×憲大尉 河村 愛三 憲少佐 植木 鎮夫 憲大尉 四方 諒二

憲大尉 赤藤 庄二

麴町憲兵分隊

憲少佐 大木 繁

麻布聯隊區司令部

步中佐 古恩 了

科學研究所

步中尉 生田 目 常雄

陸軍大學校

砲中佐 堀 又幸 × 砲少佐 佐野 忠義 砲中佐 畑 勇三郎

騎少佐 大内 孜 騎少佐 片岡 董 步大尉 永井八津次

步大尉 福山 寛郎 騎大尉 坂井 芳雄 步中尉 辻 政信

步大尉 三島 美貞 步大尉 大野 武城 步大尉 青木 一技

步大尉 笹路 太郎 騎大尉 渡邊富士雄 騎大尉 本郷 忠夫

陸軍自動車學校

步少佐 原口敬之助

陸軍戸山學校

步少尉 鶴田 國衛 步少尉 池田 早苗 步少尉 石川 寛一

步少尉 植田 稔 步少尉 伊藤知四郎

陸軍士官學校

砲大尉 山本 清衛

✓
陸軍步兵學校

步少佐 米藤 知文

陸軍步兵第一聯隊

步少佐 生田 寅雄 × 步少佐 目賀田周之助

近衛步兵第二聯隊

× 步少佐 田中 信男 步少尉 近藤 傳八

近衛步兵第三聯隊

步大尉 長 江昌

近衛野砲兵聯隊

砲少佐 日野木正雄 砲大尉 福地 春雄

步兵第一聯隊

步少佐 土橋 勇逸

學校配屬將校

步少佐 岩佐 俊 (近歩一獨協中)

步少佐 小濱 代善 (近歩二府立五)

步少佐 田坂八十八 (歩三目白中)

步少佐 松崎 直人 (近歩二京北實)